掲載日：2010年02月10日08面　　(C)奈良新聞社



文部科学省委託事業

# 総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラムin奈良

# 健康・仲間づくりから地域再生へ

文部科学省委託事業の総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラムin奈良（財団法人・日本体育協会、財団法人・奈良県体育協会主催、奈良新聞社、全国地方新聞社連合会共催）が去る1月16日、生駒市北新町の生駒市中央公民館で開催された。同フォーラムは、総合型地域スポーツクラブづくりを通じて、健康づくりや仲間づくり、地域のコミュニティーの形成など誰もが生涯を通じて楽しむことができる活動の普及・啓発を目的に開催された。当日は前全日本女子バレーボールチーム監督・柳本晶一氏が「可能性への挑戦～私の歩んだ道～」をテーマに基調講演、続いて「地域スポーツの楽しさ～みんなが集う楽しみのススメ～」をテーマにパネルディスカッションが行われた。

## 基調講演　可能性への挑戦　～私の歩んだ道～

前全日本女子バレーボールチーム監督　柳本　晶一氏

## どん底でこそ真価発揮

柳本　晶一氏

前全日本女子バレーボールチーム監督。1951年大阪生まれ。大阪商業大学附属高校卒業。帝人三原に入社、73年全日本代表。76年モントリオール五輪出場。2003年全日本女子代表監督に就任しアテネ、北京五輪に出場。

**▼監督を引き受けて**

女子代表監督を引き受けたとき、全日本チームはどん底だった。シドニーオリンピックには出場できず、02年の世界選手権は13位という最下位記録になった。日本の女子バレーは東京オリンピックのころに黄金時代を築き上げたが、ロサンゼルスオリンピックから落ち目になり、アテネオリンピックの出場は危ういのではないかと言われていた。私は強化担当だったことと、4つのチームの監督を務めていずれもどん底から立て直した実績が買われての就任だった。

監督就任にあたっては、目標設定を明確化すること、キャスティングの重要性をチームづくりの基本的な考え方とした。

**▼目標設定の明確化**

適材適所に配して演出することだ。黄金時代の全日本は、ニチボー貝塚や日立のように単独チームだった。それを初めて選抜制チームにした。

チーム12人のうち、中心メンバーに吉原知子、竹下佳江、高橋みゆきを選んだ。いずれもバレー界では評価されていなかった選手だ。

吉原は指導者に罵声（ばせい）を浴びせたりするような選手だ。不器用でリズム感がない。だが、努力すると確実に伸びていく選手だ。しかもバルセロナ、アトランタのオリンピックに行ったキャリアがある。これを生かすべきだと思った。

竹下は挫折を経験している。シドニーオリンピックのエースセッターだったが、身長が低かったせいもあって戦犯呼ばわりされた。それですっかり自信をなくして引退してしまった。しかしやはり「もう一度夢を見てみたい」と復帰してきた。セッターには人間力が要求される。挫折した貴重な経験を生かせると思った。

高橋はバレーボールが日本一うまいけれども、サボるのも日本一だった。高橋の優れている点は、自主性があって自分で判断できるところだ。

このように、3人の欠点には目をつぶって長所を引き出そうと考えた。リスクはあるが、いいところを認めてやれば倍の力を発揮できる選手たちだ。

**▼選手育成の要諦**

女子は男子と違って難しい。同じ人間でもまったく別物だ。男子は論理的に説得すればだんだん力をつけていく。女子はおだてると調子に乗る、そして選手を信頼しても信用してはいけない。選手には目に見えないミスと目に見えない伸びる瞬間がある。これをチェックして指導者が適切に指導すること。これが指導者の役割だと思う。

周りを変えるには、まず自分を変えること。勝ち、勝ち、勝ちの人生はないが、負け、負け、負けの人生もない。人間は行き詰ったら、そのどん底で人間としての真価が問われる。これが私のバレー人生から得た教訓だ。

**▼キャスティング**

キャスティングとは、選手を

当時の全日本は、世界で戦う自信を失い、まったく目的意識を持たない三流チームだった。世界で勝てないからアジアで勝つ、中国・韓国が強くなってきたのでアジアで3位を目指すと、どんどん目標が後退していった。

私は「やる以上はメダルを狙う。センターポールに日の丸を揚げる」と言った。誰も相手にしなかったが、私はやればできると思っていた。

## パルティシパンネ　地域スポーツの楽しさ　～みんなが集う楽しみのススメ～

パネリスト

大阪教育大学附属高等学校平野校舎教諭　松田　雅彦氏

1963年大阪生まれ。大阪教育大学教育学部保険体育科専攻卒業。体育授業論が専門分野。財団法人・日本体育協会総合型クラブ育成委員会中央企画班員、しまもとバンブークラブ顧問。

橿原健康スポーツクラブクラブマネジャー　前川　妙子氏

1954年静岡県生まれ。東京学芸大学教育学部保健体育学科卒業。高校教諭等を経て91年から奈良県立橿原公苑スポーツ教室講師。2005年から橿原健康スポーツクラブ健康トレーニング教室代表・クラブマネジャー。

NPO法人クラブパレットゼネラルマネジャー　榎　敏弘氏

1963年生まれ。石川県内の中学校に勤務し、剣道部を全国優勝に導いた。一般社団法人地域スポーツシステム研究所所長のほか地域スポーツプロデューサーとして活躍。財団法人・日本体育協会総合型クラブ育成委員会中央企画班員。

コーディネーター

財団法人日本体育協会・総合型クラブ育成委員会中央企画班班員　伊倉　晶子氏

1968年横浜市生まれ。東海大学教養学部国際学科卒業。2008年から市民組織「りんくす」代表。総合型クラブの設立の運営に携わり、09年に一般社団法人・東京スポーツリンクを設立し事務局を担当。

## 「やってみたい」実現　世代、種目を超え取り組み

**▼総合型地域スポーツクラブ**

**伊倉**　本日は総合型地域スポーツクラブとは何かについて考えてみたい。

**松田**　スポーツ文化の力とは、人と人、人と社会をつなぐ機能＝文化である。スポーツは「私もあなたも楽しい！」が原則だ。そして地域再生、まち興しとは人興しのことである。

これまでのスポーツは学校の部活を中心に発達してきた。したがって、小学校、中学校、高等学校、大学から社会人と進んでいく過程で、部がなくなったり指導者が代わったり、あるいは燃え尽きてしまうなどスポーツ活動が途切れてしまう。したがって、これからのスポーツ日本は新たな仕組みが必要になってくる。

まずスポーツは地域づくりを考えること。第2にプレイヤーズ・ファーストの理念が大切。「SPORTS」は違う。スポーツは文化のまとまりとしてとらえるべきだ。またチームワークとクラブワークは違う。

プレイヤーズ・ファーストとは、体育の授業で言えば指導者が一方的に指導するのが指導者ファーストで、プレイヤーが自分のしたいスポーツをするのがプレイヤーズ・ファーストだ。

これからのスポーツは、1つの種目で頂点を極める「巨人の星」からいくつかの種目を楽しむ「庶民の星」型にするべきで、それによって子どもの可能性を開いていくべきだ。

またスポーツだけではなく、芸術・音楽なども同じ価値を持つことで文化を振興することも大切だ。

今後はチームからクラブに質的な転換をしていく必要がある。地域スポーツの新しい仕組みには4つのポイントがある。

第1に「みんなのやってみたい」が実現できる、第2に人任せでなく自分たちでやる、第3に世代、種目などを超えた取り組みをする、第4にチームの枠組みを超えた組織にすることだ。この4つの仕組みを持つ組織が総合型地域スポーツクラブだ。

総合型地域スポーツクラブは、この組織を運営する役割のクラブマネジャーを中心に一貫指導による活動の継続性、施設を一緒に使うなどの連携によって運営される。現在、日本には2425のクラブがあり、480のクラブが創設中である。全国の市町村1798のうち1167の市町村にクラブがある。つまり普及率は64・9％だ。今後もより一層の普及を期待したい。

**▼橿原健康スポーツクラブ**

**前川**　橿原健康スポーツクラブは、橿原市の橿原公苑を拠点に活動している。もともとは橿原公苑スポーツ教室が母体だったが、休みがあることや抽選に外れるなどの問題があった。そこで運動することで健康になる、自分の健康は自分で守るという意識の会員が中心になって自分たちが望んでいる形のスポーツクラブをつくろうという機運が出てきた。会員数は当初の25人から230人まで増えた。

平成17年4月17日に第1回橿原公苑スポーツクラブ準備委員会を開き、クラブ名、活動拠点、活動プログラム、運営委員の役割分担、指導体制、活動日、活動財源を話し合って決めた。

6月16日には橿原健康スポーツクラブK.K.S.C.の第1回健康トレーニング教室を開いた。

さらに9月29日には太極拳体験イベントを行い、そこから健康太極拳教室が開設され、総合型地域スポーツクラブが誕生した。

その後は健康トレーニング、健康太極拳のほか健康ハイキング、健康卓球、小学生フィットネス、ちびっこ親子フィットネスやイベント事業を行い、K.K.S.C.リーダー育成講座も行っている。

クラブの運営は理事会と事務局が担当し、各事業部の代表者らが理事会を構成する。

現在は各教室が活動しているほか、各種スポーツの体験の交流大会、講習会なども行っている。

**▼クラブパレット**

**榎**　クラブパレットは、石川県かほく市という人口3万5000人の町にある会員数1300人の総合型地域スポーツクラブだ。平成14年5月18日に450人でスタートした。財政規模は約7400万円であり、その大部分を自主財源で賄っている。

スタッフは常勤7人、アルバイト13人で、サッカー教室、バレエ教室、シェイプアップクラブ、社交ダンスクラブ、健康教室などのほか白山登山、白山アドベンチャーキング、スキー・スノボー教室、水泳教室、パレット学院などイベントを市民の手で開催する新しいスポーツ環境をつくり出している。

最近はクラブハウスをつくり、サーキットトレーニングルームや託児室を設備した。またクラブだけではなく、スポーツ振興費が増額された。そして何より、地域で未来を考える人が増えてきて、夢を語り出したことが大きい。つまり新しい市民が登場してきたということだ。クラブの魅力は、ミッション（使命）、ビジョン（将来像）、パッション（情熱）だ。新しい21世紀の市民センターを創出し、「パレット」の中から新しい出会いとつながり、人づくり、まちづくりをしていくのが夢だ。

**伊倉**　総合型地域スポーツクラブは、まち興しのために地域の住民が担ぐ神輿のようなもの。誰でも担げるし、進む方向も自分たちで決めることができる。見ているよりは担ぐ方が面白い。何か始めてみようと思ったら、SCネットならに加入している総合型地域スポーツクラブに気軽に相談してほしい。

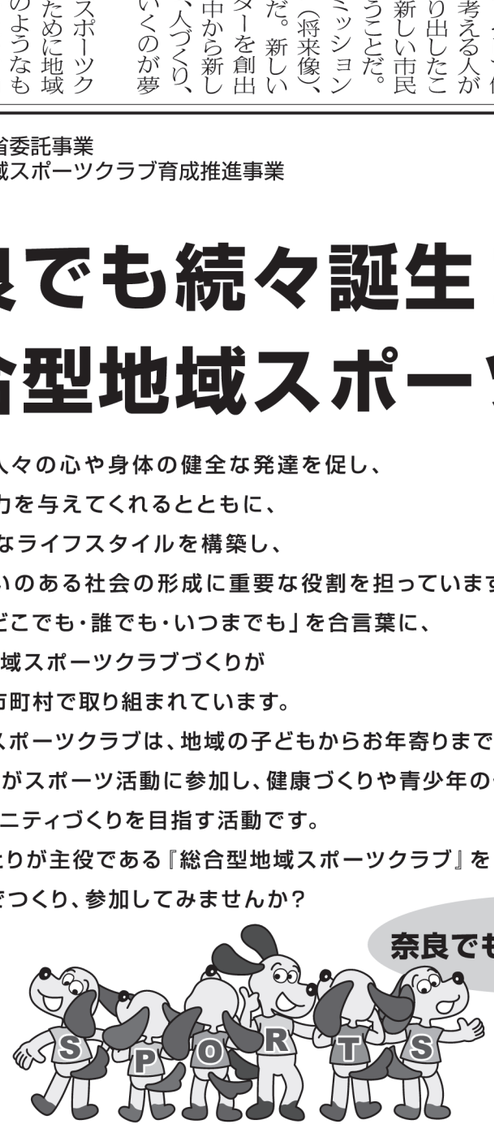

文部科学省委託事業
総合型地域スポーツクラブ育成推進事業

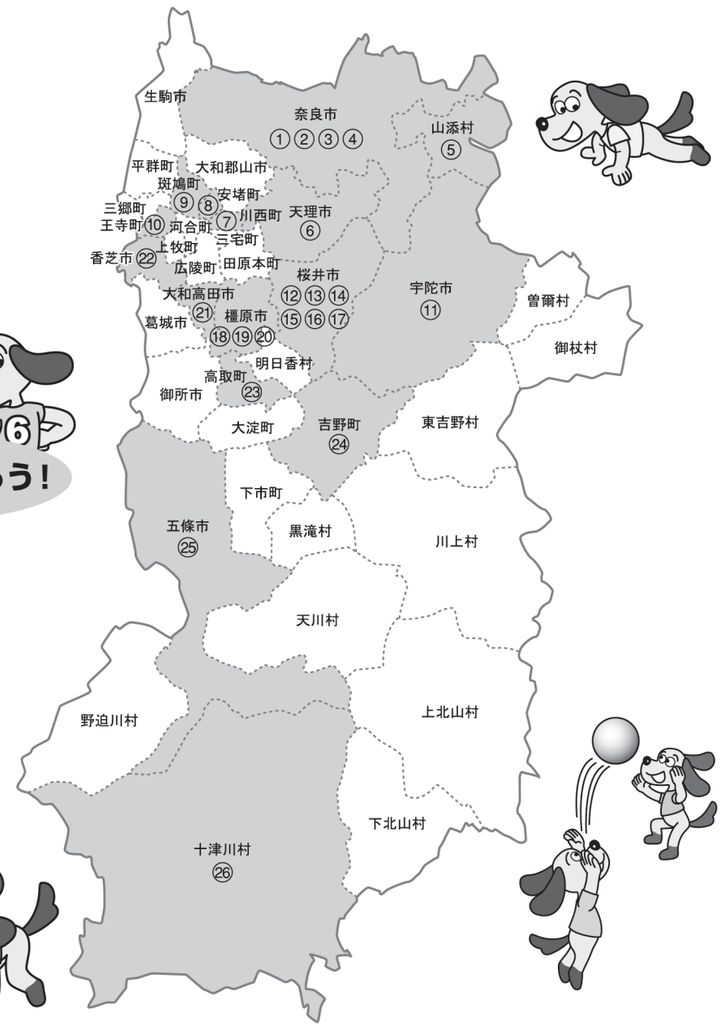
# 奈良でも続々誕生！総合型地域スポーツクラブ

スポーツは人々の心や身体の健全な発達を促し、
生命力や活力を与えてくれるとともに、
健康で豊かなライフスタイルを構築し、
夢や生きがいのある社会の形成に重要な役割を担っています。
「いつでも・どこでも・誰でも・いつまでも」を合言葉に、
今、総合型地域スポーツクラブづくりが
奈良県の各市町村で取り組まれています。
総合型地域スポーツクラブは、地域の子どもからお年寄りまで、
より多くの人がスポーツ活動に参加し、健康づくりや青少年の健全育成、
そしてコミュニティづくりを目指す活動です。
住民一人ひとりが主役である『総合型地域スポーツクラブ』を
皆さんの手でつくり、参加してみませんか？

みんなでつくろう！

奈良でも盛り上がろう！




**奈良県の総合型クラブ取り組み状況**（平成22年1月現在）

| 市町村名 | クラブ名 |
|---|---|
| 奈良市 | ①平城ニュータウンスポーツ協会 |
| | ②NPO法人ソレステレージャ奈良2002 |
| | ③鴻ノ池スポーツクラブ |
| | ④NPO法人ならスポーツクラブ |
| 山添村 | ⑤奈良アスレチックス山添 |
| 天理市 | ⑥前栽校区ゆうゆうクラブ |
| 川西町 | ⑦川西スポーツクラブ |
| 安堵町 | ⑧すこやか安堵スポーツクラブ |
| 斑鳩町 | ⑨元気クラブいかるが |
| 王寺町 | ⑩総合型地域倶楽部 やわらぎトラスト |
| 宇陀市 | ⑪フレッシュアップ榛原 |
| 桜井市 | ⑫芝運動公園スポーツクラブ |
| | ⑬桜井校区体育協会スポーツクラブ |
| | ⑭上之郷スポーツクラブ |
| | ⑮大福地域スポーツクラブ |
| | ⑯安倍体育協会スポーツクラブ |
| | ⑰桜井西体育協会スポーツクラブ |
| 橿原市 | ⑱NPO法人ポルベニル カシハラ スポーツクラブ |
| | ⑲香久山総合型スポーツクラブ |
| | ⑳橿原健康スポーツクラブ KKSC |
| 大和高田市 | ㉑ディアブロッサ高田スポーツクラブ |
| 香芝市 | ㉒かしば総合型地域スポーツクラブ |
| 高取町 | ㉓高市FC |
| 吉野町 | ㉔吉野スポーツクラブ |
| 五條市 | ㉕五條スポーツクラブ設立準備委員会 |
| 十津川村 | ㉖十津川村総合型地域スポーツクラブ |

**SCステーション**　クラブづくりの意義やサポート体制、全国で展開されているクラブなどの情報が紹介されています。
http://www.japan-sports.or.jp/local/

●お問い合わせ先
(財)奈良県体育協会 総合型クラブ担当・・・・・・・TEL 0742-22-5791
(財)日本体育協会 クラブ育成課・・・・・・・・・・・・TEL 03-3481-2278